

授業計画

科目名	英語				担当	山根 よし子		
実務経験	高等学校英語科教員としての実務経験を活かし学生へ教授する					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				○ 教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 保育に関わる現場において、必要とされる英語力・教養を身につける。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育士として責任ある指導ができるように英語を中心にした教養、指導能力を身に着けることを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 基礎英会話能力を習得する。 保育の現場で必要な基礎語彙能力と正しい発音を身につける。 保育の現場で活用できる簡単な英語の歌や活動を習得する。</p>								
授業計画								
第1回	英語の発音と数字							
第2回	自己紹介をしてみよう							
第3回	登園時の会話							
第4回	降園時の会話							
第5回	英語の歌を歌おう							
第6回	体の部位を英語で言ってみよう							
第7回	体調が悪い時の会話							
第8回	アレルギーについて伝える時の会話							
第9回	園の行事について							
第10回	物語を読み聞かせよう(個人)							
第11回	物語を読み聞かせよう(グループ)							
第12回	子どもたちにアルファベットを教えよう							
第13回	子ども達にアルファベットを教えよう(グループ発表)							
第14回	「ありがとう」を伝えよう							
第15回	まとめ							
	出版社名				書籍名			
テキスト	(株) 三修社				アメリカをかえた20人			
参考文献								
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物(6)・小テスト(4)							

授業計画

科目名	体育基礎				担当	石田和也	
実務経験	保健体育教員として指導した経験を活かして学生に講義を行う					授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・必修・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】 1. 健康であるということがどういうことか。生活習慣と健康について学ぶ。 2. 運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的な知識を学ぶ。 【授業全体の内容と概要】 1. 健康であるということがどういうことか。生活習慣と健康、スポーツについて学ぶ。 2. 心の健康とは何か、ライフサイクルを通して心の健康やストレスについて学ぶ。 3. 体力とは何か、大学生の体力、体力の想定と評価方法について学ぶ 4. スポーツの指導法と安全及びスポーツの運営管理について学ぶ。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 健康の大切さを知り、体力向上、健康維持のためにスポーツの果たす役割を理解させる。 2. 健康で、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送ることができるための知識と教養を身につける。 3. スポーツの歴史・文化的特性と現代の特徴について理解を深め、幅広い知識を身につける。 4. 各スポーツ種目を理解するとともに、大会の運営や企画の一助に資する。							
授業計画							
第1回	・健康であるということがどういうことか。生活習慣と健康について学ぶ。						
第2回	・心の健康とは何か、ライフサイクルを通して心の健康やストレスについて学ぶ。						
第3回	・体力とは何か、大学生の体力、体力の想定と評価方法について学ぶ						
第4回	・身体の発育・発達について学ぶ。						
第5回	・運動の意味、実際、スポーツ傷害、救急法について学ぶ。						
第6回	・スポーツの意味、役割、変遷、マナーについて学ぶ。						
第7回	・「する」スポーツ、「みる」スポーツ、「支える」スポーツについて学ぶ。						
第8回	・健康、運動、スポーツについて総合的に学ぶ。						
第9回	・現代の健康問題について統計、発生要因、疾病予防について学ぶ。						
第10回	・人の心身と健康について身体と健康面について学ぶ。						
第11回	・人の心身と健康について心と健康面について学ぶ。						
第12回	・スポーツの歴史と技術、戦術、ルールの変遷、及び用具、メディアの発展等について学ぶ。						
第13回	・スポーツの国際親善や世界平和、オリンピックの意義等について学ぶ。						
第14回	・大会等を安全かつ公平に実施するための、大会の目的に応じたルールや審判の仕方について学ぶ。						
第15回	・大会等を安全かつ効果的に運営するためのスポーツ組織やボランティアの必要性について学ぶ						
テキスト	道と書院	大学生の健康・スポーツ科学					
参考文献	(財)日本体育協会	公認スポーツ指導者養成テキスト					
	大修館書店	高等学校保健体育					
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物						

授業計画

科目名	情報				担当	曾田 裕司	
実務経験	高校でのパソコン授業の経験を活かし、パソコンの基礎知識及び活用方法について学生に教授する					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				(教養) ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 保育士に求められる事務処理において、パソコンを活用できるよう、パソコン全般の基礎知識、技能を習得する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによるデータ処理や表・グラフの作成、プレゼンテーションソフトによる発表資料の作成演習を行う。 関連する知識を実際に操作して確認し、演習することによって、状況に応じた操作を行えるようにする。 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ol style="list-style-type: none"> インターネット上で必要な情報を収集することができる。 ワープロソフトで効率的に文書を作成することができる。 表計算ソフトで、データの分析ができる。 プレゼンテーションソフトで、発表資料を作成できる。 							
授業計画							
第1回	Windowsの基本操作、実習準備						
第2回	文字入力、簡単な文書の作成						
第3回	インターネット						
第4回	インターネット、電子メール						
第5回	ワープロソフトの基本操作						
第6回	ワープロソフトの応用						
第7回	ワープロソフトの応用						
第8回	ワープロソフトの応用						
第9回	表計算ソフトの基本操作						
第10回	表計算ソフトの応用						
第11回	表計算ソフトの応用						
第12回	プレゼンテーションソフトの基本操作						
第13回	プレゼンテーションソフトの応用						
第14回	総合演習						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	実教出版			改訂版 30時間でマスターoffice2019(Windows10対応)			
参考文献							
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

授業計画

科目名	国語(文章表現)				担当	山岡 雄一郎		
実務経験	高等学校英語科教員としての実務経験を活かし学生へ教授する					授業形態	講義・演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				(教養)・必修・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 保育の現場で働く社会人として必要な国語力を習得する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 (1)用字(2)用語(3)表現技術の各分野について練習問題にそって基礎事項を確認。 文章作成の演習ならびに実践。さらに詩・童謡・俳句・短歌等の創作、鑑賞を通して豊かな感性を育成する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 自分の考えを整理してその内容を的確に伝えるための表現力を習得する。 また俳句・童謡等の創作、鑑賞を通して豊かな感性を育成する。</p>								
授業計画								
第1回	ガイダンス・自己紹介スピーチ							
第2回	レポートの書き方							
第3回	レポート作成							
第4回	レポート振り返り							
第5回	レポート作成							
第6回	レポート振り返り							
第7回	レポート作成							
第8回	俳句の作成							
第9回	童謡の作成							
第10回	レポート作成							
第11回	レポート作成							
第12回	レポート作成							
第13回	小論文の書き方							
第14回	小論文作成							
第15回	まとめ・テスト							
	出版社名				書 籍 名			
テキスト	萌文書林				保育者になるための国語表現			
参考文献	有斐閣新書				論文・レポートの文章作法			
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・試験							

授業計画

科目名	保育原理				担当	小山優子		
実務経験						授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 この授業では、保育とは何かを踏まえた上で、幼児教育に携わる保育者が知っておくべき保育に関する基礎的な理論を理解することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育の制度や歴史、児童観や教育観の変遷を知る中で、子どもを見る視点や保育理論・教育方法を学び、保育とは何かを自分なりに考えることができるようにする。また、保育者の子どもへの関わりや指導方法、子どもの遊びや生活をよりよいものにするための工夫について、保育に関するビデオを見ながら学ぶことを目指す。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 授業の学習目標は、(1)幼児教育・保育について歴史的、制度的、思想的に理解する(2)保育者の役割を知る(3)保育の現状と課題を知る、である。</p>								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 教育・保育の基本用語 2 乳幼児期の教育とは 3 保育施設の種類と特徴 4 幼児教育・保育施設の歴史 5 保育の制度①(保育所・幼稚園) 6 保育の制度②(認定こども園) 7 基盤となる保育者の役割 8 子ども理解とは 9 子ども理解の方法 10 子どもの発達の理解 11 保育と環境 12 多様化する保育サービス、保護者支援とは 13 保育の目的と目標 14 保育内容と保育方法 15 保育の本質的意義 								
	出版社名				書籍名			
テキスト	フレーベル館		フレーベル館		「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
参考文献	授業で適宜、紹介する。必要な資料は授業で配布する。							
単位認定方法	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。							

授業計画

科目名	子ども家庭福祉				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉および教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養・必修・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する 子どもの人権擁護について理解する 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>子どもやその家族に対する専門職として必要な技術や知識を学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子どもやその家族に対する専門職として必要な技術や知識を習得する</p>								
授業計画								
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念							
第2回	子ども家庭福祉の歴史の変遷							
第3回	子ども家庭福祉の制度と実施体制							
第4回	子ども家庭福祉の施設と専門職							
第5回	子どもの人権擁護と社会的養護							
第6回	要保護児童への対応							
第7回	少年非行等への対応							
第8回	障害のある子どもへの対応							
第9回	貧困家庭の子どもへの対応							
第10回	外国籍への子どもへの対応							
第11回	ドメスティックバイオレンスとその防止							
第12回	母子保健と子どもの健全育成							
第13回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	みらい				保育士を目指す人の子ども家庭福祉			
参考文献					適宜授業にて資料配布			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	社会福祉				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉および教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する 社会福祉の制度や実施体系について理解する 社会福祉における相談援助について理解する 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する 社会福祉の動向と課題について理解する</p> <p>【授業全体の内容と概要】 多様な社会福祉の領域や対象を知ることによって社会福祉とは何かを学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 多様な社会福祉に関連する諸問題や制度を理解し実践に役立つ力を習得する</p>								
授業計画								
第1回	社会福祉の理念と歴史の変遷							
第2回	子ども家庭福祉と社会福祉							
第3回	社会福祉の制度と法体系							
第4回	社会保障及び関連制度の概要							
第5回	社会福祉の専門職							
第6回	社会福祉における利用者を保護する仕組み							
第7回	相談援助の理論							
第8回	相談援助の意義と機能							
第9回	相談援助の対象と過程							
第10回	相談援助の方法と技術							
第11回	共生社会の実現と障害者施策							
第12回	地域福祉の推進							
第13回	諸外国の社会福祉の動向							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	みらい				保育士を目指す人の社会福祉			
参考文献					適宜授業にて資料配布			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	こどもの保健				担当	舟木 賢治		
実務経験	医学部・看護学校での解剖学・生理学の講義・実習の実務経験を活かし、授業					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス		<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア		<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <u>必修</u> ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 成長、発達を続けている子どもの健康の意味を理解するとともに、子どもの健康、発育について総合的な知識を習得し、さらに、健全な育成を目的とした指導計画や環境構成など現場での活用を習得する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの発育・発達と健康状態の把握の仕方、子どもの疾病とその予防法と適切な対応について解説する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法および他種職間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 								
授業計画								
第1回	子どもの心身の健康と保健の意				(1) 生命保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的			
第2回					(2) 子どもの健康と子どもを取り巻く環境			
第3回					(3) 健康と健康指標			
第4回					(4) 子どもを取り巻く社会環境			
第5回	子どもの発育・発達と保健				(1) 身体の発育			
第6回					(2) 運動機能・精神機能の発達			
第7回					(3) 生理機能の発達			
第8回	子どもの健康状態の把握				(1) 子どもの健康状態の把握			
第9回					(2) 体調不良の子どもへの対応			
第10回					(3) 発育・発達の評価とその基準			
第11回					(4) 保護者との情報共有			
第12回	子どもの疾病と予防および対応				(1) 主な病気の特徴と対応・予防			
第13回					(2) 感染症			
第14回					(3) アレルギー疾患			
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	総合医学社				「保育者のためのわかりやすい子どもの保健」監修 飯島一誠, 編集 稲垣由子			
参考文献	フレーベル館				「保育所保育指針解説(平成30年3月)」厚生労働省			
単位認定方法	出席状況(10%)、定期試験(90%)を総合して評価する。							

授業計画

科目名	保育内容(健康)				担当	舟木 賢治		
実務経験	医学部・看護学校での解剖学・生理学の講義・実習の実務経験を活かし、授業を行う					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 保育の全体構造における健康に関して総合的に指導、助言が行えるよう理論や知識を習得する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育における健康な生活、健康への関心、健康維持増進、安全な生活について理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 保育における領域「健康」の意義について理解する。 2. 乳幼児の「健やかな心と身体」を支えているものを理解する。 3. 領域「健康」と保育方法、保育の実際について理解する。 4. 領域「健康」の指導上の留意事項、変遷について理解する。</p>								
授業計画								
第1回	子どもの健康とは				(1) 保育における「健康」および領域「健康」とは			
第2回					(2) 保育所での領域「健康」のとらえ方			
第3回	からだと心の発育・発達				(1) 幼児期のからだの発育・発達の特徴			
第4回					(2) 脳の構造と働き			
第5回					(3) 幼児期における心の育ち			
第6回	遊びと子どもの育ち				(1) 遊びの意義と遊びによって育まれるもの			
第7回					(2) 運動遊びの重要性と運動遊びの実際			
第8回					(3) 子どもの遊びの現状と課題			
第9回	健康な生活リズムの形成				(1) 基本的生活習慣の内容とその形成の意義			
第10回					(2) 基本的生活習慣の形成の実際			
第11回					(3) 生活リズムと生体リズム			
第12回	食と健康: 食育の重要性と食の安全管理							
第13回	病気の予防・衛生管理							
第14回	園における安全教育と防災・危機管理							
第15回	試験							
	出版社名				書 籍 名			
テキスト	大学図書出版				乳幼児の健康			
参考文献	フレーベル館				「保育所保育指針解説(平成30年3月)」厚生労働省			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	保育内容(環境)				担当	岡崎 由美子		
実務経験	幼稚園教諭としての経験を活かし、保育における環境構成について考え、演習を行う。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことを目指す。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、演習形式で学ぶことによって理論や知識への理解をさらに深める</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育構想がしていける方法を身につける。</p>								
授業計画								
第1回	オリエンテーション							
第2回	○保育の基本				※保育所保育指針、幼稚園教育要領			
第3回	○保育内容と領域「環境」							
第4回	○幼児期の特性と環境				・環境との出会い			
第5回	○人と環境・地域社会							
第6回	○演習							
第7回								
第8回								
第9回	○行事と子どもの育ち				その時期、季節ならではの自然の営み・文化に参加し、子どもの育ちと環境構成の重要性を理解する			
第10回								
第11回	○環境構成と保育計画							
第12回								
第13回	○現代社会と子どもの情報環境							
第14回	○人的環境としての保育者の役割							
第15回	試 験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	一藝社				コンパクト版保育内容シリーズ3 環境			
参考文献					幼稚園教育要領、保育所保育指針			
成績評価の方法	試験、演習参加態度等							

授業計画

科目名	保育内容(言葉)				担当	岡崎 由美子	
実務経験	幼稚園教諭としての経験と乳児期の発達を演習をとおして学び行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養 (必修) ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解や教材研究等を通して、子どもの豊かな言葉と表現を育む保育について考える。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 ・保育内容「言葉」の意義や乳幼児期の言葉の発達について学ぶ。 ・領域「言葉」における保育者の役割や発達に応じた関わり方について話し合い・考える。 ・絵本の読み聞かせ・教材研究</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ・領域「言葉」のもつ意義と役割を理解する。 ・乳幼児期の言葉の発達とそれに関わる保育者の役割について理解し、発達に応じた関わり方を考えることができる。 ・乳幼児期の発達段階にあった適切な教材を選び考え・工夫し、より多くの知識や技術を習得する。</p>							
授業計画							
第1回	保育内容「言葉」の意義						
第2回	「言葉」のねらいと内容の考え方						・保育所保育指針、幼稚園教育要領
第3回	子どもの言葉の発達						
第4回	言葉と環境						
第5回	絵本を読む・ことば遊び						
第6回							
第7回							
第8回	保育者の指導・支援						
第9回							
第10回							
第11回	児童文化の理解(※実践・体験)						
第12回							・演習をとおして言葉・演じることの理解をする。
第13回							
第14回							
第15回	試 験						
	出版社名				書 籍 名		
テキスト	みらい				保育者をめざす人の保育内容「言葉」		
参考文献							
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・発表・試験						

授業計画

科目名	音楽基礎 I				担当	三島 祐司		
実務経験	音楽の専門知識・技能をもって、学生に演習を行う						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 保育者・教育者として音楽を通して子どもの豊かな心を育てることができるよう、保育現場で必要とされる基礎的な音楽の知識・技能を習得する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育現場に必要なピアノの技能習得を目指し、習熟度に応じた個人レッスンをを行う。 基礎的知識を身に付けるための音楽理論を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育現場に必要なピアノの技能を習得している。 音楽の基礎的知識が身に付いている。</p>								
授業計画								
第1回	シラバスの確認と習熟度のチェック、次回以降の課題曲決定							
	実技				理論			
第2回	指の独立				音符・休符の種類 音部記号 拍子記号 オクターブ			
第3回	バイエル・ハノン				前時確認プリント			
第4回	バイエル・ハノン				リズム打ち			
第5回	バイエル・ハノン				聴音の基礎			
第6回	バイエル・ハノン				音名・音階基礎事項			
第7回	バイエル・ハノン				前時確認プリント			
第8回	バイエル・ハノン				調号基礎事項			
第9回	バイエル・ハノン				前時確認プリント			
第10回	バイエル・ハノン				短音階			
第11回	バイエル・ハノン				調号と臨時記号 移調			
第12回	バイエル・ハノン 階名唱試験曲提示				前時確認プリント			
第13回	バイエル・ハノン バイエル試験曲提示				筆記試験例題			
第14回	バイエル・ハノン 階名唱試験実施				筆記試験例題解説			
第15回	バイエル試験実施				筆記試験実施			
	出版社名			書籍名				
テキスト	全音楽譜出版社			「標準バイエルピアノ教則本」「全訳ハノン教本」				
成績の評価の方法	日頃の授業状況、提出プリント、筆記試験、実技試験を総合して評価します。							

授業計画

科目名	幼児体育				担当	岡崎由美子	
実務経験	幼稚園教諭としての経験を活かし、演習を行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児期に体得する基礎的動作や基本運動の理解を行うとともに、保育者として必要な運動能力を高め、運動遊びに必要な教材研究を行う。安全管理・安全教育に必要な知識を身に付ける。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>学生自身の運動能力を高めるとともに、乳幼児の身体発達を理解する中で、実践で行う保育者の支援・役割を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p>							
授業計画							
第1回	○ オリエンテーション、		・教科書「はじめに」		<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;"> ※毎回、ラジオ体操第1、第2を行う </div>		
第2回	○ 乳幼児の身体の発育と発達		・子どもの生活環境を考える				
第3回	○ 乳幼児の運動遊び		・スキヤモンの発育曲線 ・運動遊びの意義と重要性				
第4回	○ 乳幼児の遊びを考える		※(演習)→多目的ホール使用 ・いろいろな素材や道具をつかって遊ぶ(※発達と遊び)				
第5回			・伊波野保育園へ				
第6回			・屋外遊び、散策等				
第7回							
第8回	○ 乳幼児の安全教育						
第9回			・乳児・幼児の不慮の事故を調べ学習し、発表				
第10回	○ ロールプレー						
第11回							
第12回			※乳幼児の発達に沿った運動遊びを考え、その遊びを共有する。				
第13回							
第14回							
第15回	試 験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	建帛社		改訂 運動遊び				
参考文献							
成績評価の方法							

授業計画

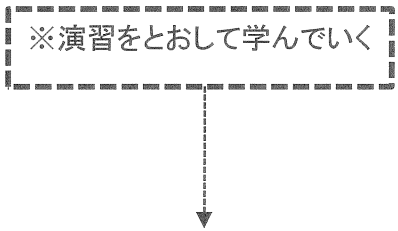
科目名	乳児保育 I				担当	岩田 優子		
実務経験	保育現場での乳児保育の経験を活かし、実践事例を交えながら講義する。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 乳児保育の意義や目的、役割について学び、乳児保育の現状と課題について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、乳児保育に携わる保育者に求められる知識や方法・技術を学ぶ。 ・乳児保育における職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は人間として成長していく基礎づくりとして非常に重要な時期であることを理解し、発達に応じたかかわり方を理解する。 ・乳児の発達及び生活と遊びの基本について理解する。 								
授業計画								
第1回	○オリエンテーション ○乳児保育の意義・目的と歴史の変遷							
第2回	「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念(養護と教育の一体性、応答的なかわり)							
第3回	乳児保育の基礎知識1(乳幼児の心の発達、発達の特徴)							
第4回	乳児保育の基礎知識2(保育の目標、ねらい及び内容)							
第5回	乳児保育の基礎知識3(配慮事項、支援について)							
第6回	保育所・認定こども園における乳児保育							
第7回	乳児院における乳児保育							
第8回	乳児保育が行われるそのほかの保育							
第9回	子育て支援における乳児保育							
第10回	乳児保育における保護者支援							
第11回	○職員間・地域の関係機関との連携 ○乳児保育の現状と課題							
第12回	6か月未満の子どもの育ちと保育内容1							
第13回	6か月未満の子どもの育ちと保育内容2							
第14回	「保育実習 I」に向けての実践演習(おむつ換え、衣服の着脱、抱っこ、おんぶ)							
第15回	試 験							
	出版社名		書籍名					
テキスト	ミネルヴァ書房		乳児保育演習ブック[第2版]					
参考文献								
成績評価の方法	出席状況・授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	保育実習指導 I				担当	佐々木 明美	
実務経験						授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15	15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I の意義・目的・内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。 ・保育実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習を行う上での知識・技術の習得を通し、実習の観点を明確にする。 ・記録、日誌、指導計画の実際を学ぶ。事後指導を通して実習の総括と自己評価を行う。 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>自己評価を通して、保育士を目指すための課題を明確にし、今後の学習と自己研鑽に努める意識をもつ。</p>							
授業計画							
第1回	保育実習とは(意義・目的・概要・心構え)			第16回	実習事後指導①(振り返り、自己評価)		
第2回	実習で何を学ぶか			第17回	実習事後指導②(報告会に向けて)		
第3回	観察・体験学習の視点			第18回	報告会		
第4回	観察・体験学習①			第19回	施設実習とは(意義・目的・概要・心構え)		
第5回	観察・体験学習②			第20回	施設実習への準備		
第6回	観察・体験学習③			第21回	実習施設の事前学習		
第7回	観察・体験学習④			第22回	事前訪問7について		
第8回	観察・体験学習の振り返り			第23回	実習目標作成		
第9回	事前訪問7について			第24回	実習の記録(日誌)について ※保育所実習日誌の改善点を踏まえて		
第10回	実習目標作成			第25回	実習の記録(日誌)の書き方演習 ※記録の対象児童は18歳まで		
第11回	実習の記録(日誌)について			第26回	実習事前指導(確認事項、お礼状他)		
第12回	実習の記録(日誌)の書き方演習			第27回	実習事後指導①(振り返り、自己評価)		
第13回	指導案について(部分実習に向けて)			第28回	実習事後指導②(報告会に向けて)		
第14回	指導案作成演習			第29回	報告会		
第15回	実習事前指導(確認事項、お礼状他)			第30回	保育実習 I 総括(保育士を目指すには)		
	出版社名			書籍名			
テキスト	ナツメ社 みらい		大元千種編 実習の日誌と指導案 喜多一憲編 福祉施設実習ハンドブック 適宜授業にて資料配布				
参考文献	フレーベル館		保育所保育指針解説				
成績評価の方法	出席状況・授業態度・提出物等						

授業計画

科目名	幼児教育方法論				担当	岡崎 由美子		
実務経験	幼稚園教諭としての実践事例を基に授業を行う。						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養・必修・ 選択必修 ・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 幼児期における保育方法の基本について学習し、「環境を通した教育」の意義や意味、幼児期の遊びの中の学びや幼児期にふさわしい生活について理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 幼児期における教育方法の基本について、演習を取り入れながら、身近な環境との出会いやいろいろな素材への気づきなど、その意義や意味を理解して学びにつなぐ。また、保育実践の場で生じる事例検討を通してより理解を深めていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の発達について、特徴や捉え方を理解する。 ・「生きる力」の基礎を培う、保育方法の基本について理解する。 ・子どもの主体的な生活をともに作っていく保育者の役割について理解する。 								
授業計画								
第1回	オリエンテーション							
第2回	保育方法の基本							
第3回	子ども理解と保育方法							
第4回	環境を通しての保育(※環境を構成するとは)							
第5回	遊びを通しての指導							
第6回	保育の方法としての保育形態							
第7回	発達の時期に応じた保育のあり方と保育者の役割							
第8回	行事を生かした保育の展開							
第9回								
第10回	保育における計画と評価							
第11回								
第12回								
第13回	幼小、地域の連携を考える							
第14回								
第15回	試 験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	北大路書房				保育の内容・方法を知る 幼児教育の方法			
参考文献	フレーベル館				保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説書 幼保連携型認定こども園教育保育要領			
成績評価の方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							



授業計画

科目名	保育の歴史と法 I				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉および教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・必修・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 保育の歴史的変遷について理解する 基本的人権や子どもの人権について理解する 日本国憲法などの基礎を理解する</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育の歴史や日本国憲法、現代社会における諸問題を通して基本的人権や基礎的な法制度を学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 現代社会における諸問題を通して基礎的な法制度を理解し、守られるべき人権の理解を深める</p>								
授業計画								
第1回	法の目的と本質							
第2回	法の体系とその効力							
第3回	日本国憲法①							
第4回	日本国憲法②							
第5回	基本的人権と新しい人権							
第6回	判例検討①							
第7回	自由権と社会権							
第8回	民法における親権							
第9回	判例検討②							
第10回	国会・内閣・裁判所①							
第11回	国会・内閣・裁判所②							
第12回	判例検討③							
第13回	保育政策の歴史的変遷と今後							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	嵯峨野書院				ポイント法学			
参考文献					適宜授業にて資料配布			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	保育の歴史と法Ⅱ				担当	渡部 敏郎	
実務経験	理学修士、高等学校管理職としての専門性を活かし、講義・演習を行う					授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・必修・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 保育士・幼稚園教諭を目指す人たちが、保育や教育に関する法律について演習を交えながら学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 教育基本法や学校教育法、児童福祉法、その他の保育・教育に関連する法律について、事例を通して理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育現場における様々な課題を法的な観点から捉え、自らの力で最適な解決を図ることができるようになる。</p>							
授業計画							
第1回	憲法の基本的考え方 前文と重要条文 日本国憲法 前文と教育に関する条項 第11条・13条・14条・19条・23条・26条・27条						
第2回	教育基本法とは 教育の目的と目標 家庭教育 幼児期の教育 社会教育 教育基本法 前文 第1条・2条・10条・11条・12条・13条						
第3回	生涯学習 教育の機会均等 政治教育 宗教教育 教育行政 教育振興基本計画 教育基本法 第3条・4条・14条・15条・16条・17条						
第4回	学校とは 幼稚園(保育所)の目的・目標 学校教育法 第1条・22条・23条・24条・25条・26条・27条 保育所保育指針						
第5回	体罰の禁止及び懲戒について 学校教育法 第11条 体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底(文科省通知)						
第6回	児童・生徒の保護について 児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律						
第7回	人権教育及び児童の権利に関する条約について 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 子どもの貧困対策の推進に関する法律						
第8回	いじめの防止と対応について いじめ防止対策推進法 いじめ防止等のための基本的な方針 重大事態の調査に関するガイドライン						
第9回	安全教育と防災教育 について 学校保健安全法 第27・29・30条 学校防災作成手引き・学校事故対応に関する指針(文科省)						
第10回	食育 学校給食 アレルギー について 食育基本法 学校給食法						
第11回	特別支援教育 障害の程度 発達障害 について 学校教育法施行令第22条 発達障害者支援法						
第12回	インクルーシブ教育 合理的配慮 障害者差別解消 について 共生社会の支援教育の推進 障害者の権利に関する条約 第2・24条 障害者基本法 第1・2・16条						
第13回	社会教育と法規 について 社会教育法 子どもの読書活動の推進に関する法律 スポーツ基本法						
第14回	幼保小連携 保護者との関係 について 事例演習						
第15回	保育を取りまく社会との関係 について 事例演習						
	出版社名			書籍名			
テキスト				『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房、必要に応じてプリントを配布			
参考文献							
成績評価の方法	出席状況 授業態度 提出物 レポート						

授業計画

科目名	就職支援				担当	持田 陽子	
実務経験	ジョブカード作成アドバイザーとして学生に指導を行う					授業形態	演習
単位数	6				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	15	15	(教養) 必修・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な技術を学習する							
【授業全体の内容と概要】							
自己理解を深め、将来のあり方生き方を主体的に考えて具体的な取組みができるようになることをめざし、2年間を通して学習する。校内での授業は、講義演習形式を用いて実施する。また、主体的に行動できるようになるために学外においても活動を実施する。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な知識や技術を習得する							
授業計画							
第1回	ガイダンス(授業のねらい・内容と進め方等について)				第16回	1年次振り返り	
第2回	自己理解について				第17回	ジョブカード作成	
第3回	自分のめざす社会人像について				第18回	個別面談①進路希望調査	
第4回	職業理解(保育士の仕事の内容と職場環境について)				第19回	個別面談②進路希望調査	
第5回	自分の目指す保育士像と達成への具体的な取組みについて				第20回	福祉人材センターへの登録	
第6回	個別面談①(進路希望調査)				第21回	就職先についての情報収集①	
第7回	ジョブカード作製				第22回	就職先についての情報収集②	
第8回	求人票の見方、検索方法				第23回	就職を見据えた活動①	
第9回	履歴書の書き方				第24回	就職を見据えた活動②	
第10回	電話のかけ方、話し方				第25回	就職を見据えた活動③	
第11回	礼状の書き方				第26回	就職を見据えた活動④	
第12回	面接マナーと自己PR				第27回	個別面談③進捗状況調査	
第13回	採用試験対策				第28回	就職を見据えた活動⑤	
第14回	就職活動に向けた調査①				第29回	就職を見据えた活動⑥	
第15回	就職活動に向けた調査②				第30回	まとめ	
テキスト	CORE 2024.4～2027.3						
参考文献	適宜資料配布						
成績評価の方法	出欠状況・授業態度・学外活動・提出物等						

授業計画

科目名	子ども家庭支援の心理学				担当	平野 美緒		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。 臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・必修・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 生涯発達に関する心理学的な基礎知識を習得し、各時期の特徴や発達課題について理解する。また、家庭支援や子育て支援について発達の観点から学ぶことを通して、子どもやその家庭を包括的に捉える視点を身につける。加えて、子どもの精神保健とその課題について理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 生涯発達及び子どもの精神保健について基礎的な事項を学ぶ。また、家庭や家族について基本的な定義や特徴を踏まえたうえで、現代の社会状況とそこにおける子どもの育ちについて理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、発達課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。 ・家庭や家族の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点をもつ。 ・子どもとその家庭を取り巻く現代の社会的状況について理解する。 								
授業計画								
第1回	生涯発達の考え方							
第2回	発達過程① 乳幼児期・学童期							
第3回	発達過程② 思春期・青年期							
第4回	発達過程③ 成人期・高齢期							
第5回	子育て経験と親としての育ち							
第6回	子育て家庭に関する現状と課題① 課題設定・グループワーク							
第7回	子育て家庭に関する現状と課題②							
第8回	子育て家庭に関する現状と課題③							
第9回	子育て家庭に関する現状と課題④							
第10回	子育て家庭に関する現状と課題⑤							
第11回	特別なニーズを持つ家庭と援助							
第12回	子どもの精神保健とその課題① 子どもの心の理解							
第13回	子どもの精神保健とその課題② 子どもの心の健康に関わる症状							
第14回	子どもの精神保健とその課題③ 子どもの心の健康に関わる症状							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	ななみ書房				子ども家庭支援の心理学			
参考文献								
単位認定方法	出席数、授業態度、グループ発表課題、提出物							

授業計画

科目名	子どもの理解と援助				担当	平野 美緒	
実務経験	臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養(必修)・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 子ども理解に基づく保育実践を行うことの意義について理解した上で、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法を身につける。また、子ども理解に基づく保育士の援助や態度について理解し、実践できるようになる。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 子ども理解のための基盤となる発達を学び、保育者として適切な援助が行えることを目的とする。実践場面での具体的なかわりや援助を通して子ども理解を深め、保護者支援を含めた対応について習得するように講義を進める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ・保育実践において、子ども一人一人の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・子どもを理解する上での基本的な考え方と具体的な方法を理解する。 ・子ども理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、実践できるようになる。</p>							
授業計画							
第1回	保育所保育指針と子ども理解～保育士等の自己評価						
第2回	子どもに対する関わりと共感的理解①						
第3回	子どもに対する関わりと共感的理解②						
第4回	子どもを理解する視点① 子どもの生活や遊び						
第5回	子どもを理解する視点② 子どもの仲間関係と遊び						
第6回	子どもを理解する視点③ 葛藤やつまずき						
第7回	子どもを理解する視点④ 集団における経験と育ち						
第8回	子どもを理解する視点⑤ 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達						
第9回	子ども理解の方法① 行動観察・面接						
第10回	子ども理解の方法② 発達検査・知能検査						
第11回	子ども理解の方法③ 職員間の対話 保育における発達援助①						
第12回	子ども理解の方法④ 保護者との情報共有						
第13回	子どもの理解に基づく発達援助① 発達の課題に応じた援助と関わり						
第14回	子どもの理解に基づく発達援助② 特別な配慮を要する子どもの理解と援助						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	光生館			子どもの理解と援助～育ち・学びをとらえて支える			
参考文献							
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験						

授業計画

科目名	保育内容(人間関係)				担当	平野 美緒	
実務経験	臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 乳幼児期の人間関係の発達の姿を理解し、人とかかわる力を育てるための指導及び援助について学ぶ。加えて、人的環境である保育者として必要な役割やあり方を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 乳幼児の心身の発達とともに人とかかわる力が育つ過程を学ぶ。その上で、人とかかわる力を育てる保育者の役割について学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 乳幼児の発達の姿をとらえ、人とかかわる力を身につけていく過程について理解する。 2. 保育内容を構成する人間関係について理解し、乳幼児の人とかかわる力を養うための保育者の役割や援助のあり方を理解する。</p>							
授業計画							
第1回	幼児教育の基本と領域「人間関係」						
第2回	領域「人間関係」の「ねらい及び内容」と具体的な姿						
第3回	子どもを取り巻く人々と人間関係①						
第4回	子どもを取り巻く人々と人間関係②						
第5回	人とかかわる力の育ち(乳児期)						
第6回	人とかかわる力の育ち(1歳以上3歳未満)						
第7回	人とかかわる力の育ち(3歳以上)						
第8回	子どもの遊び・いざこざと人間関係						
第9回	子どもの様々な感情と人間関係						
第10回	人間関係を育む保育展開の演習①						
第11回	人間関係を育む保育展開の演習②						
第12回	人間関係を育む保育展開の演習③						
第13回	人間関係を育む保育展開の演習④						
第14回	小学校生活への接続						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	建帛社			コンパス 保育内容人間関係			
参考文献							
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験						

授業計画

科目名	保育内容(表現)				担当	岡崎 由美子	
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、子どもの表現方法を演習を通して行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養 (必修) ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 保育領域「表現」の内容を理解し、いろいろな体験をする中で自らの感性を磨く。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 ①理論学習 ②実技 ③創作・発表</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 理論的・実践的な学び・創作発表を通じ、想像的・創造的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す。</p> <p>①領域「表現」の理解 ②乳幼児期の表現の特徴、生活や人間関係とのかかわりを知る。 ③自らの気持ちを自分らしく表現できる表現力を磨く。</p>							
授業計画							
第1回	○オリエンテーション						
第2回	○ 領域「表現」のねらいと内容を理解・幼稚園教育要領、保育所保育指針						
第3回	○子どもの育ちと表現		・リズム遊び・リトミックの理解				
第4回	○保育者の感性と表現		・はせみつこ編「おどる詩・あそぶ詩・きこえる詩」 (詩を朗読して感じ、考える)				
第5回	○子どもの感性と表現		演 習				
第6回							
第7回	○季節・自然を感じ・考える		保育の中で行われる行事を体験する				
第8回							
第9回	○いろいろな素材との出会い						
第10回							
第11回	○表現を育てる保育者の役割と園環境						
第12回							
第13回	○協同(共同・協働)		※作品・制作 への取り組み				
第14回							
第15回	○試 験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	ミネルヴァ書房		『新しい保育講座 保育内容「表現」』				
参考文献			幼稚園教育要領、保育所保育指針				
成績評価の方法	出席状況、提出物、発表態度						

授業計画

科目名	障害児保育				担当	原 広治		
実務経験	特別支援教育の実践や教育行政等での経験を活かし、子どもと周囲のヒト・モノ・コトとの関係の視点から、障害の捉えと実践について講義・演習を行う。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 ・様々な障害と障害のある子どもについて理解し、彼らへの保育の在り方について理解する。 ・障害のある子どもを養育する保護者への支援や関係機関等との連携について理解する。 <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育の理念や関わりの基本的な内容について、グループワーク等を通して学びを反すうしながら理解を深める。 ・実践事例にふれながら互いの意見を出し合い、実感としての理解を深める。 ・様々な障害や障害のある子どもの理解を深め、支える保育について学ぶ。 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもに対する尊厳を重視した保育での関わりや支援の在り方を理解し、保育所におけるインクルーシブ保育への理解を深めるとともに、個別的保育と集団保育の意義がわかる。 								
授業計画								
第1回	障害のある子の保育の歴史的変遷と障害児施策							
第2回	発達と障害の捉え直しと支援の視点							
第3回	障害と障害のある子へのかかわり①まとめ							
第4回	障害と障害のある子へのかかわり②まとめ							
第5回	障害と障害のある子へのかかわり③発表・協議							
第6回	障害と障害のある子へのかかわり④発表・協議							
第7回	様々な障害の理解と配慮①まとめ							
第8回	様々な障害の理解と配慮②まとめ							
第9回	様々な障害の理解と配慮③発表・協議							
第10回	様々な障害の理解と配慮④発表・協議							
第11回	発達障害のある子の理解と援助							
第12回	一人一人に応じた保育計画							
第13回	職員間の協働・同僚性と他機関との連携、就学相談と学校との接続							
第14回	就学相談と学校との接続							
第15回	授業全体のまとめ							
	出版社名				書籍名			
テキスト	金子書房				「発達が気になる子どもの療育・発達支援入門」			
参考文献	ミネルヴァ書房				最新保育講座15『障害児保育』、『障害のある子とともに歩んだ20年』			
成績の評価の方法	試験・レポート(70%)、発表・提出物(20%)、授業への積極性(10%)を総合して評価します。							

授業計画

科目名	保育実践演習				担当	岡崎由美子		
実務経験	幼稚園教諭としての経験を活かし、現代の保育について考える。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養 (必修) ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p>これまで修得してきた保育に関する知識や技術を生かし、保育を取り巻く諸問題に対して現状分析・検討を行うことを通して、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養う。</p> <p>保育を取り巻く諸問題に関して、自分で問題意識や興味関心に応じて課題を見つける。その課題について、自身で情報収集をしたり、ディスカッションをしたりしながら理解を深め、解決法を自分なりに考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の専門性についての理解を深めることができる。 ・保育の現状を踏まえ、問題を発見し、情報収集や検討を行い、問題解決について自分の考えをもつことができる。 ・保育を取り巻く諸問題について、自分なりの考えをもち、保育実践で生かすことができる。 								
授業計画								
第1回	オリエンテーション					情報収集 グループ討議		
第2回	保育実習の振り返り							
第3回	保育者としての基本的振る舞いと向上について考える							
第4回								
第5回	子どもの育ちと家庭、社会環境の影響							
第6回								
第7回	現行保育制度の問題点 (※少子化時代の保育として～)							
第8回	専門的課題に取り組み					※調べ学習(レポート、教材等)		
第9回								
第10回								
第11回	課題設定						※保育を取り巻く諸問題について、問題を発見し、情報収集や検討を行い、問題解決について自分の考えをまとめる。	
第12回								
第13回							※保育教材を創意工夫して作成する (子どもと一緒に作るもの、遊びの媒介になるもの、絵本やパネルシアターなど)	
第14回								
第15回	発表・まとめ							
	出版社名			書籍名				
テキスト	大学図書出版			保育・教職実践演習				
参考文献	フレーバル館			保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育保育要領				
成績評価の方法	出席状況、授業態度、提出物、発表							

授業計画

科目名	卒業研究				担当	専任教員		
実務経験	-					授業形態	演習	
単位数	6				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15	30	教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 これまでの学習を総合的に活かし、自ら課題提起をしながら研究を行う。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 個人またはグループで研究を進め、適宜検討会を開催する。教員による指導は、適宜個別に行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 以下の到達目標を設定し、保育現場や実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的能力の形成を図る。 ①卒業研究として適切なテーマを設定することができる。 ②設定したテーマの情報を収集し、課題に取り組むことができる。</p>								
授業計画								
第1回	オリエンテーション				第16回	前期振り返り		
第2回	前期卒業研究の進め方について				第17回	後期卒業研究の進め方について		
第3回	課題図書研究				第18回	研究計画書作成		
第4回	課題図書研究				第19回	研究計画書作成		
第5回	課題図書研究				第20回	研究計画書作成		
第6回	課題図書研究				第21回	製作研究		
第7回	課題図書研究				第22回	製作研究		
第8回	課題図書研究				第23回	製作研究		
第9回	課題図書研究				第24回	製作研究		
第10回	課題図書研究				第25回	製作研究		
第11回	課題図書研究発表準備				第26回	製作研究		
第12回	課題図書研究発表準備				第27回	製作研究		
第13回	課題図書研究発表準備				第28回	製作研究		
第14回	課題図書研究発表				第29回	中間報告		
第15回	課題図書研究発表				第30回	中間報告		
					第31回	中間報告		
					第32回	製作研究		
					第33回	製作研究		
					第34回	製作研究		
					第35回	製作研究		
					第36回	製作研究		
					第37回	製作研究		
					第38回	製作研究		
					第39回	製作研究		
					第40回	製作研究		
					第41回	製作研究発表準備		
					第42回	製作研究発表準備		
					第43回	製作研究発表準備		
					第44回	製作研究発表		
					第45回	製作研究発表		
	出版社名				書籍名			
テキスト	適宜資料配布							
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、中間報告、研究発表内容等を総合的に評価							

授業計画

科目名	教育相談				担当	平野 美緒		
実務経験	臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・必修・ 選択必修 ・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 教育相談やカウンセリングの基礎的な理論を理解した上で、学校教育において直面する多様な問題に適切に取り組むことができる力を身につける。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 教育相談の意義や課題を学び、教育相談を進めるために必要な基礎的知識や方法、態度等を心理学的視点から学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1.教育相談に必要な理論、概念、方法を理解する。 2.教育相談を進める際に必要となる基礎的知識、基本的姿勢を身につける。 3.子どもや保護者、関係者との関わりの中で、保育者(教師)自身が自己課題に気づき、自己成長を図る視点を養う。</p>								
授業計画								
第1回	教育相談の意義と役割							
第2回	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マインド①							
第3回	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マインド②							
第4回	予防的・開発的カウンセリング①							
第5回	予防的・開発的カウンセリング①							
第6回	教育相談に役立つ様々な心理療法①							
第7回	教育相談に役立つ様々な心理療法②							
第8回	教育相談に役立つ様々な心理療法③							
第9回	心の問題と教育相談							
第10回	いじめと教育相談							
第11回	不登校と教育相談							
第12回	保護者に対する支援							
第13回	教師自身のメンタルヘルスと自己成長①							
第14回	教師自身のメンタルヘルスと自己成長②							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	北大路書房				エッセンス学校教育相談心理学			
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	子どもの世界				担当	舟木 賢治	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養 ・ 必修 ・ <u>選択必修</u>		
<p>【授業の目的・ねらい】 子どもは豊かに伸びていく可能性を秘めており、どのような方法で保育が行われるかは、子どもの育ちや学習に影響を与える。保育は、いたずらに大人の価値観を押し付けることなく、幼児一人ひとりの発達を適切に把握し、発達の課題に即した援助を行うことが重要である。授業では、保育方法についての基本的な考え方を学ぶとともに、幼児の発達の特性に応じた指導、援助について判断できる力を養う。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 幼児期の子ども理解と保育方法について理論的に概説する。また、作業課題や演習問題を取り入れて、学習した理論を実践とつなげながら学ぶことによって、より深い学びとなるようにする。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 (1) 子ども理解と保育方法について理論的に学び、保育のあり方の本質を理解する。 (2) 子ども一人一人の特性に応じ、発達の課題に配慮した保育について考え、判断することができる。</p>							
授業計画							
第1回	保育の方法とは： 保育方法の基本と保育の原理						
第2回	子ども理解にもとづく保育方法						
第3回	子ども理解の方法：内面の理解と発達理解						
第4回	環境をとおした保育の方法：保育における環境および環境構成とは						
第5回	遊びをとおした保育の方法：子どもにとっての「遊び」とは						
第6回	保育における個と集団の関係性						
第7回	子どもにふさわしい園生活のあり方						
第8回	子どもの発達に応じた保育のあり方(0・1・2歳児の保育)						
第9回	子どもの発達に応じた保育のあり方(3・4・5歳児の保育)						
第10回	事例をとおして幼児理解と保育者の援助について考える(1)						
第11回	事例をとおして幼児理解と保育者の援助について考える(2)						
第12回	保育の計画と実践						
第13回	保育における家庭・地域との連携						
第14回	配慮を要する子どもの保育と対応						
第15回	試験						
	出版社名	書 籍 名					
テキスト	ミネルヴァ書房	「保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡邊英則 編著					
参考文献	フレーバル館	「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省					
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

授業計画

科目名	子どもと自然				担当	渡部 敏郎		
実務経験	教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・必修・ <u>選択必修</u> ・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>「人間は生き物であり、自然の一部である」というあたりまえのことを基本に「どう生きるか」を考えてみる。 自然という生き物を取り巻く環境が生き物に及ぼす影響や育つ条件をしり、さらに、生き物と自然のかかわりを探求する。 生き物を育て育成する実践活動を通して、生き物への興味・関心を深める。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>生き物に関する基礎的知識と動植物の飼育・栽培方法について学習する。生き物の飼育や栽培などの実践的活動をととして生きること育てることの大切さを知り、命の重みに気づく。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物と自然の関係や育成環境について理解する。 ・生物の育成条件と自然とのかかわりを理解し、適切な栽培・飼育の技術、管理方法を習得する。 ・保育現場での生き物とかわる保育についての指導のありかたについて理解を深める。 								
授業計画								
<p>第1回 生き物の多様性と自然のとらえ方、生息環境</p> <p>第2回 生き物と自然の構成と人間とのかかわりについて</p> <p>第3回 自分の育てたい植物栽培の技術と育成環境の管理</p> <p>第4回 栽培の実践活動(1)</p> <p>第5回 栽培の実践活動(2)</p> <p>第6回 栽培の実践活動(3)</p> <p>第7回 生物の野外観察・採集</p> <p>第8回 野外観察・採集した生物の食性や習性に関する調査</p> <p>第9回 野外観察・採集した生物の食性や習性に関する発表</p> <p>第10回 近年の子どもの育ちと自然及び環境について</p> <p>第11回 子どもの育ちに与える生き物の影響と関わり方</p> <p>第12回 保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(1)</p> <p>第13回 保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(2)</p> <p>第14回 保育現場での生き物及び自然環境の問題点と留意点</p> <p>第15回 試験</p>								
テキスト	なし							
参考文献								
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	リズム表現Ⅱ				担当	岡崎由美子	
実務経験	幼稚園教諭としての経験を活かし、演習を行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
					教養・必修・ 選択必修 ・幼免		

【授業の目的・ねらい】

リズムをとおして保育実践の中で必要な演奏技術や表現活動を身に付け、実践へとつなぐ。

【授業全体の内容と概要】

保育現場で多く歌われる楽曲を選択し、身体表現の楽しさや歌うことの楽しさを感じ、指導方法や基本的な音と動きを身につける。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

音楽的知識を自分の体を使って感じ取り、理解しながらそれらを実践的に展開していく。

授業計画

第1回

○オリエンテーション ・リズム表現とは

第2回

○リズムの基本
・身体のバランスを考える

第3回

○子どもの歌 (季節を感じる)

第4回

第5回

○聴 音
ハ長調、4/4, 2/4,
※毎回行う簡単な聴音を経験する中
で、リズムや拍、即興・伴奏に親しむ

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

○伊波野保育園のリズム運動を見学→(時期を調整する)

第11回

第12回

○課題曲(CD)を聴き、しっかりと曲の持つイメージを受け入れ、試行錯誤しながら自分なりの表現をしていく過程を楽しみ、仲間と一緒に一つの作品として発表する。

第13回

第14回

第15回

○試 験

1. 身体の開放
 2. 身体を感じる
 3. 口の体操
 4. アクセントと拍子
 5. 指揮法
 6. ソルフェージュ

	出版社名	書 籍 名
テキスト		
参考文献	国立音楽大学附属幼稚園児のためのリズム、幼児のためのリズム改訂版	
成績評価の方法	出席数、提出物、表現実技、	

授業計画

科目名	造形表現Ⅱ				担当	廣江 潮美		
実務経験	美術の教員として指導した経験を活かし、演習を行う						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 幼児の造形教育において必要な知識、技術の理解、習得を深め、造形的な保育実践力を養う。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 1. 授業は、「演習」の形式ですすめる。 2. 造形表現体験が中心となるため、授業前後における材料、用具の準備、片付け、服装等の用意が必要となる。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 幼児の豊かな造形表現を指導、援助するために、造形表現体験を通して、造形活動の知識や技術の理解、習得を深める。 2. 保育実習に向けて、題材研究、教材化、造形表現の展開等、保育の造形的実践力を養う。 3. 作品や画像・制作の資料・感想等を各自スケッチブックにまとめ、振り返りや今後の指導資料として活用する。</p>								
授業計画								
第1回	<p>【オリエンテーション】「こどもと造形Ⅱ」のねらいと内容について 造形教育の果たす役割と授業の取り組み方 子どもの造形表現の発達と作品の見方、関わり方 (pp.63-82)</p>							
第2回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 発想・構想 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう							
第3回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作① 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう							
第4回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作② 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう							
第5回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作③ 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう							
第6回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作④ 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう							
第7回	作品発表会 制作した教具を活用した模擬保育(幼児側と保育者側に分かれて)							
第8回	『折り紙を使った色面構成』(p.37)							
第9回	『おもちゃをつくる』(pp.141-154)							
第10回	『お面をつくる』(p.47)							
第11回	『ビニールでつくる』(p.48、p.138)							
第12回	『衣装デザインと制作』 制作① 様々な材料でつくる～生活素材、自然素材、新聞紙、段ボール、ビニール、ひも							
第13回	『衣装デザインと制作』 制作② 様々な材料でつくる～生活素材、自然素材、新聞紙、段ボール、ビニール、ひも							
第14回	『衣装デザインと制作』 制作③ 様々な材料でつくる～生活素材、自然素材、新聞紙、段ボール、ビニール、ひも							
第15回	作品発表・鑑賞、まとめ 幼児造形教育の果たす役割と援助のしかた							
	出版社名		書籍名					
テキスト	萌文書林		『保育をひらく造形表現』					
参考文献								
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物(作品、感想等を記録・整理したスケッチブック)							

授業計画

科目名	特別ニーズ教育論				担当	三島 修治		
実務経験	小中学校での特別支援教育に携わった経験及び教育行政での勤務経験を活かし、実践事例を交えながら講義・演習を行う。						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・必修・ <u>選択必修</u> ・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解するとともに、その支援の在り方について、保育現場や学校教育現場の事例をとおして理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 学生同士のディスカッションや個人及びグループ発表、レポートなどとおして(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化について、(2)我が国の特別支援教育に理念、制度及び展開、(3)特別支援学級や特別支援学校、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、について理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 (1)インクルーシブ教育の理念と特別支援教育、(2)障がいの理解と特別支援教育、(3)いじめ、不登校等特別な支援のニーズのある児童生徒の理解と支援の実際、の基本的な内容について理解するとともに、自分の考えを持って説明できる。</p>								
授業計画								
第1回	特別な教育的ニーズとは何か 特別な教育的ニーズとは何かについて討論し、講義全体への理解を深める。							
第2回	特別な教育的ニーズについて考える(母語が日本語でない児童生徒) 母語が日本語でない児童の抱える教育的ニーズ、社会的・教育的支援について学習する。							
第3回	特別な教育的ニーズについて考える(貧困家庭、ヤングケアラー)の抱える教育的ニーズ 貧困家庭、ヤングケアラーの抱える教育的ニーズ、社会的支援について学習する。							
第4回	いじめの理解と対応 いじめについて、その定義や実態を理解するとともに、不登校との関連を学習する。							
第5回	不登校への支援と対応 不登校の児童生徒について、その背景と支援の実際について学習する。							
第6回	インクルーシブ教育の理念とこれからの特別支援教育 インクルーシブ教育、合理的配慮とユニバーサルデザイン教育の実際について学習する。							
第7回	発達障害の理解と支援(LD) 疑似体験や事例を基に、LDについての理解とその支援について学習する。							
第8回	発達障害の理解と支援(ADHD) 事例を基に、ADHDの理解と支援について学習する。							
第9回	発達障害の理解と支援(ASD) 事例を基に、ASDの理解と支援について学習する。							
第11回	子ども理解・アセスメントについて 子どもの理解の基本的な考え方と心理検査の活用について学習する。							
第12回	医療的ケア児について 医療的ケアの必要な幼児、児童生徒についての理解と対応について学習する。							
第13回	特別支援学級・特別支援学校での教育 特別支援学級・特別支援学校における教育課程の考え方と特色について学習する。							
第14回	社会自立と就労支援 支援の必要な生徒の社会自立と就労の考え方と就労への福祉制度について学習する。							
第15回	筆記試験							
	出版社名		書籍名					
テキスト	なし		講義ごとに資料を作成・配布します。					
参考文献	文部科学省		特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年告示)					
単位認定方法	対面授業の評価と印刷授業(レポートの評価と終了試験試験)の総合評価による。							
学生に	対面授業の評価と印刷授業(レポート評価、科目修了試験)の総合評価による。							

に 対 す る 評 価	対面授業	参加態度・課題提出状況10%		
	印刷授業	レポートの評価と科目終了試験の総合評価90%		
	総合評価	A(100点～90点)、B(89点～80点)、C(69点～60点)、D(不合格:59点以下)		
レポート課題				
設題数		枚数	形式	用紙
1		1題につき6枚～8枚	横書き	A4版、40字×40行
課題について		現代の学校は、発達障害、貧困、外国籍児童、いじめ、不登校等、様々な教育的ニーズに応えなければならない。現在の学校が抱える課題の中から1つ選び、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてのあなたの考える方策を述べよ。		
レポート課題のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育は、通常教育の改革であるという視点から考察する。 ・教育的ニーズの具体例や対応策を文献や新聞などで調べる。 ・調べた具体例と対応策について、自己の経験や思いと重ね合わせて、自分の考えとして文章化する。(その際、必ずデータを基に説明、文章化すること) ・レポートの構成は、テーマ、テーマ設定の理由、テーマに関する現状(文献や新聞等の資料やインクルーシブ教育の視点での分析・考察を含めること)、テーマに関する自身の考え、テーマの解決のための方策、全体を通しての考察の各項目とすること。 		

授業計画

科目名	保育実習指導Ⅱ				担当	佐々木明美	
実務経験	保育現場で実習指導に携わった経験を活かし、細やかな指導をする。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅱの意義・目的・内容を理解し、保育について総合的に理解する。 ・保育実習Ⅰや既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況に応じた適切な関わり方や保育の知識・技術を活かした保育実践力を養う。 ・模擬保育を行うことにより、計画・実践・評価・改善のプロセスを体験し、実習に活かす。 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>							
授業計画							
第1回	保育実習Ⅱに向けて（保育実習Ⅰの振り返りを通して）						
第2回	子どもの気持ちを理解する関わり						
第3回	保育者の動きや思いの読みとり						
第4回	実習の記録(日誌)について（保育実習Ⅰ日誌のステップアップ）						
第5回	事前訪問について						
第6回	実習目標作成						
第7回	実習に必要な保育技術（手あそび、絵本の読み聞かせ、弾き歌い）						
第8回	指導案作成（責任実習に向けて）						
第9回	模擬保育（計画・実践・記録・評価・改善）						
第10回	模擬保育（計画・実践・記録・評価・改善）						
第11回	実習事前指導（確認事項、お礼状の書き方）						
第12回	実習事後指導（実習の振り返り、自己評価）						
第13回	実習事後指導（報告会に向けて）						
第14回	報告会						
第15回	実習総括 “理論・知識を実践にどうつなぐか”						
	出版社名			書籍名			
テキスト	ナツメ社			大元千種監 実習の日誌と指導案(保育実習指導Ⅰの講義で使用したテキスト)			
参考文献	フレーバル館			保育所保育指針解説			
				適宜資料配布			
成績評価の方法	出席状況・授業態度・提出物等						